

New Normal for Biz

仕事着の 常識を疑え!

リモートワークの増加によって、働き方が急速に変化している今。
仕事着もオケージョンごとに応じて、変わらなければいけない時代がやってきました。
スーツにタイトアップというユニホーム的な装いが当たり前ではなくなり、働く場所や相手に応じた、
さまざまな装いのスキルを身に付けなければビジネスに必要な“好印象”を得ることができなくなっているのです。
そんな“ニューノーマルな時代”に合わせて、本特集では“仕事着の常識を疑え!”と題して、
服飾史家である中野香織さんの文章からはじまり、新しいビジネススタイルの要諦をここにまとめました!

Text & Edit / Yasuhiro Sato Cooperation / Getty Images

文 / 中野香織 (服飾史家)

服装自由化の時代だからこそ、
自分のルールを決めよう

社会あるいは個人が向かおうとする方向と装いは、不可分の関係にあります。

数年前から、働き方改革が進められていた銀行や大手企業では続々と服装規定が廃止され、Tシャツ、ジーンズ、スニーカーも可となり、仕事服カジュアル化の流れは止めることができなくなっていました。そこへこのたびのコロナ禍の影響が及びます。一気にリモートワークが推し進められた結果、仕事服自由化の流れは、さらに加速しています。

ビジネススタイルが自由になるということは、自分の在り方のルールを自分で決め、その覚悟のもとに仕事服を選べということです。自分は何を目指すのか、ゆえに既存のルールとどのように折り合いをつけるのか、どのようなあり方で仕事に臨むのかを、今まで以上に主体的に考えることを求められていると受け止めるべきでしょう。

スーツスタイルにおいて、自分の意図や目指す方向を服装に反映させ、視覚を通じたコミュニケーションに成功したレジエンドの例をいくつか見てください。

たとえば、第35代アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディ。彼はボタンダウンシャツを公式の場では決して着用しませんでした。従来のアメリカのエリートは、ボタンダウンのシャツに3つボタンのサックスーツで装うのが定番でしたが、ケネディはこの暗

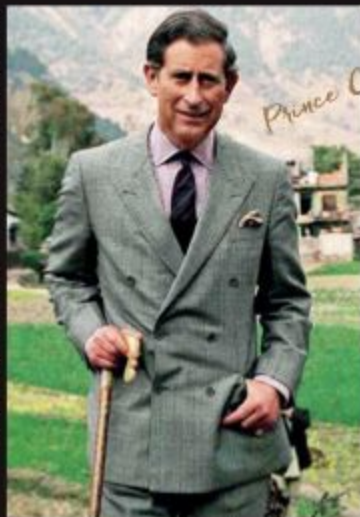
過去にも仕事着は、
ゲームチェンジャーによって
変化を重ねてきました！

1960年のジョン・F・ケネディ氏左。当時主流であった3つボタンで
胸に縫い込まれたボックステルエラストのスイツをあえて着用せず、
2つボタンの細身で洗練されたスイツを、スタイリッシュに選んでいました。



John F. Kennedy

©Photo 12



Prince Charles

ネパールのヒラヤ山麓、ベンサハルを助けたチャールズ皇太子。
ダブルボタンをすべて留めて袖にアイロンを出したスタイルは、スリの狭い
を熟知しながら、趣をなしにユニークな遊びを取り入れる彼の魅力です。

©Tim Graham



Gianni Agnelli

10代のとき、フォード社を訪ねてアメリカに渡っていたという経緯を持つ、
当時からクローバルであったジャンニ・アグネリ氏。御仁のオールドファッションのおか
げでイタリア人もアメリカ人のファッションに興味を持つようになりました。

©David Lees

黙のルールを破り、レギュラーカラーのシャツと2つボ
タンの細身のスイツで装いました。新時代にふさわ
しい新スタイルのリーダー像を、自覚的に演出した
のです。

また、フィアットの会長だったジャンニ・アグネリ
は、シャツのカフの上に腕時計をつける、ボタンダウン
シャツの襟のボタンを留めずに着る、といった「突破
り」で知られます。若い頃は完璧に「ルール」に則っ
てスイツを着ているので、ある程度の円熟の境地に
達した段階でこの逸脱をやつてのけることにより、
余裕と別格の優越を見せつけたのです。

チャールズ皇太子は逆に、1980年代から変わ
らぬダブルスーツ中心のスタイルを貫き通し、実際、
当時と同じコートや靴を着用しています。一時は
ワーストドレッシングとされたこともありましたが、そ
れでも良いものを長く使うという思想と一致させた
スタイルを続けたことで、サステナビリティー重視の
時代になってウエルドレッシングという称賛に転じまし
た。時代が皇太子に迫っていたのです。皇太子はま
た、場所・時間・オケーションに応じた着分けの模範
的なお手本を示し続けており、紳士服の宗主国と
してのイギリスのプライドを自ら体現しようとして
いることが伝わってきます。

働き方と服装が自由になった今、まず行うべき
ことは、あなたがどのような立場にあり、今後どう
ありたいかという方向を見極
めること。目指す方向と補完
し合うスタイルを通して意図
や理想を伝え、自分が望む影
響力を及ぼす、ここに装いの
真の力があります。

Profile

服飾史家として、執筆や講演、企
業の顧問・アドバイザーを務めるな
どさまざまな分野で活躍。著書に
は、『ロイヤルスタイル 英国王室
ファッション史』（吉川弘文館）な
どがあり、ヨーロッパの貴族文化か
ら最先端のトレンドまで精通する。